

ELM(法・医・倫理の資料館)が仮開館

医事法学・生命倫理学・その周辺領域の資料を専門に扱う資料館「ELM(エルム)」(館長: 間宮勇法学部長)が7月28日、駿河台キャンパス・研究棟地下1階に仮開館した。2010年度以来、法学部が開館に向けて本格的に準備を進めていた。

ELMの名称は、Ethics(倫理学)、Law(法学)、Medicine(医学)のイニシャルに由来し、その補足名称は「法・医・倫理の資料館」。今日の医事法学の創始者であり、インフォームド・コンセントを日本で最初に紹介した人物でもある故・明孝一教授が生前に収集した膨大な資料群である「エルムの森」と、公衆衛生学の大家であった故・西三郎教授から寄贈された数多くの貴重資料が、その中核となっている。

2014年9月現在の登録済収蔵資料数は、図書系資料・文書系資料を合わせ約6万9000件。今後は先の唄ライブラリー・西ライブラリーを核としつつ、国内外の新旧さまざまな資料を追加していくことにより内容をさらに充実させ、資料提供等を通じて、学術全体の進展や、国民

の健康的にして文化的な生活の実現に寄与することを目指す。

特色は主に2点。通常、図書系資料は図書館で、文書系資料は文書館で収蔵されるが、ELMではその両方を収蔵し図書館・文書館の両方の役割を兼ね備えている。2点目は、収蔵資料が研究用と学習用の2つの資料群に分けられ、前者は研究者や医療専門職者、その他医療に関わりのある団体などの利用を、後者は学部学生や大学院生はもとより、患者本人とその家族の利用を想定していることにある。

今後の展開として、数年以内にユーザーフレンドリーな検索システムの構築を予定しており、更なる利便性の向上が図られる。また、利用しやすい環境づくりのために、利用者各人のカルテ作成や、利用者への積極的な働きかけなどを通じて、利用者のニーズに応じたきめ細かなサービスを提供していく予定である。それ以外にも、専門家を対象としたシンポジウム、一般の方を対象とした患者教育セミナーなどを通じて、医療をめぐる法的・倫理的問題に関する情報提供を行っ



駿河台に仮開館したELM

ていくとともに、国内外の関係各大学・団体・学会などとの事業連携、そして、その前提として明治大学各セクションとの連携強化も同時に進めていく方針だ。

2025年以降は4人に1人が75歳以上という超高齢化社会を迎えることになる。そこでは、さまざまな場面で法と医と倫理の問題に直面することになる。本学のELMがそれらの問題に遭遇した人たちにとって、解決する場・考える場の拠点

となることを期待したい。

◇

仮開館の今年度は、月・水・金が開館日。2015年度に本開館した後は月～土を開館日とする。今後の情報についてはホームページを参照。

ELMホームページ

<http://www.meiji.ac.jp/hogaku/elm/>

第50回全国校友新潟大会

約1200人の校友が「越後一会」を楽しむ

校友会は9月7日、「第50回全国校友新潟大会」を新潟市の朱鷺メッセ・展示ホールで開催した。50回目の節目を迎えた今回の全国校友大会には、日本各地や世界から約1200人の校友が参集。互いの旧交を温めるとともに、新たなつながりも生まれた。

【関連記事5面】

今回の大会スローガンは「きなせや! うまさぎっしり『越後一会』柳都・新潟」。テレビ新潟アナウンサーの須山司氏(1994年法学部卒)、地元税理士の渡邊日奈子氏(1995年商学部卒)の校友2人が司会を務めた記念式典では冒頭、メキシコ五輪レスリング金メダリストの宗村宗二氏(1966年法学部卒)が大会旗を持って入場し、会場を沸かせた。

国歌および校歌の斉唱、物故校友への黙とうに続き、校友会

新潟県支部の小川英朗副支部長が声高らかに開会宣言。歓迎のあいさつに立った田代和孝大会実行委員長(新潟県支部長)は大会スローガンにちなみ、「“一期一会”のお茶の精神で皆様をおもてなしたい」と歓迎の意を表した。

大会会長の向殿政男校友会長は「時代や社会が変化する中でも、変わってはいけないものがある。それは『権利自由』『独立自治』の建学の精神だ」と熱弁。その上で、「時代をつな

ぐ建学の精神によって、学校も在校生も、先輩も後輩もつながっているという感覚が極めて大切。母校を思い、母校を支援し続けることがわれわれ校友の役割だ」と、校友会活動へのさらなる協力を呼びかけた。

続いて、日高憲三理事長と福宮賢一学長が祝辞を述べ、地元の大学院大学・国際大学(新潟県南魚沼市)の系列法人化や、校友ネットワークの世界への広がり、さらに文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業」への申請など、主に国際化に関する本学の最近の動きを紹介。「全学を挙げて大学の進展に努力し、世界に広く知られる、世界に誇れる明治大学にしたい(日高理事長)」、「次代を



「社会に貢献し、世界に羽ばたく母校に」と向殿校友会長

拓き、世界へ発信する大学」として、さらにまい進していく所存である(福宮学長)と、それぞれ力強く抱負を語った。

来賓の泉田裕彦新潟県知事、若林孝新潟市副市長(市長代理)、高橋悟連合父母会長からの祝辞の後、全国の校友会支部長を代表して滋賀県支部の岩田

守弘支部長が登壇。来年9月6日に同県の天津プリンスホテルで開催される、第51回全国校友滋賀大会をPRした。

最後に、明治大学ならびに校友会の発展を祈念して万歳三唱。新潟県支部の大竹和夫副支部長が閉会のあいさつを行い、記念式典は幕を閉じた。

関係者の活躍

学生の受賞、助成金の獲得等を紹介する(9月26日現在、敬称略)。①活動・受賞名、②テーマまたは受賞理由/概要。

教員

森 洋子(名誉教授)

①日本発明協会、発明奨励功労賞

②日本発明協会主催の審査員として(全国の小、中、高校生徒の発明作品)23年にわたり協力してきたことが評価された

三村 昌泰(大学院先端数理科

学研究科特任教授、MIMS所長)

①日本応用数学会2014年度年会、業績賞

②論文題目「現象数理学の方法論の確立と実践: 諸科学との融合研究の促進」非線形・非平衡現象の理論の構築および数理モデリング手法の開発に関して、研

究の黎明期から現在に至るまで世界屈指の業績を上げ続け、多くの研究者に影響を与えながら応用数理学の発展に貢献してきたことに対して与えられた

石田 祥子(理工学部助教、MIMS研究員)、野島 武敏(MIMS客員研究員)、萩原 一郎(研究・知財戦略機構特任教授、MIMS副所長)

①日本応用数学会2014年度年会、論文賞(応用部門)

②論文題目「等角写像とその円錐般折紙構造物設計への応用」日本応用数学会

論文誌Vol.22 No.4, pp.301-318(2012-12)」

これは「折紙の数理に基づいた構造設計の分野に新たな展開を与えている」ことが評価された。協同研究: 亀井 岳行(●●●)

石田 祥子(理工学部助教、MIMS研究員)、萩原 一郎(研究・知財戦略機構特任教授、MIMS副所長)

①日本応用数学会2014年度年会、ポスターセッション賞

②発表題目「数理折紙の工学応用」

明大特許“折り紙をベースにした制振構造、学内番号: 2013-P12、特願2013-220548号(2013年10月23日)”を説明したもの。優れた研究成果であるとして評価された。協同研究: 内田 博志(●●●)

OB社長(敬称略)

リテラ・クリア証券(証券、商品先物取引業)

笠原弘之(かさはら・ひろゆき) 1982年経営学部卒業。55歳。